

# 法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-12-26

## 編集後記

---

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

日本文学誌要

(巻 / Volume)

11

(発行年 / Year)

1965-03-23

## 編集後記

「法政大学八十年史」によれば、法政大学国文学会は大正15（一九二六）年に設立され、「国文学誌要」はその機関誌として昭和九（一九三四）年に創刊されている。

昨秋本号の企画の際、創刊30周年にあたってのことから△回想▽をという話が出た。

回想というとか過去および時代を懐かるといった、後ろ向きの姿勢のように思いがちであるが、決してそうであってはなるまい。過去を正しく知ること、それはこれから前へ進むために欠かせないことであろう。

30年の歩みが、決してよき時代の連続ではなかったことが、各氏の回想によっておわかりいただけたものと思う。30年間のうちの、銘記しておくべき事柄すべてを網羅することはできなかった。だが、今回漏れた事柄はいずれ補う機会があるものと思う。

残念なことだが、現在手もたには、ほんのわずかの資料しかない。もし読者が資料をお持ちならばお借し願いたい。また、お気づきの点はどしどし編集委員会までお知らせくださるようお願いしたい。

小原元教授のモスクワ大学での講義の様子をうかがう座談会を催した。この記事もおもしろくお読みいただけることと思う。文中の写真は教授の名作の中から選んだ。教授の作品の多くがカラー・スライドであったため使用できずに残念であった。だが、読者は誌面のいくつかの白黒写真からも教授の名作のすばらしさを想像されることだろう。

きき手の表章助教は、古い会員諸氏の中にはご存知ない方が多いかと思われるが、法政大学に野上豊一郎総長の大学における功績を記念して△法政大学能楽研究所▽が設立（昭和27）されたときから法政にこられた方である。専門はもちろん「能」で、現在は著書「鴻山文庫本の研究」（3月末刊）の校正に大変お忙しくしておられる。

最後になってしまったが、お忙しい中を編集委員会のわがままな注文をお聞きくださった、古田 拡教授をはじめ執筆者の方々、ならびにめんどうな校正をお手伝いくださった方々に厚くお礼を申しあげる。

次号は六月刊行の予定である。会員諸氏の投稿をお待ちしている。（近藤 健）

一九六五年三月二三日発行

日本文学誌要 第一一号

編集委員 法政大学国文学会

小田切秀雄 伊藤 敬一  
阪下 圭八 片桐 登  
安江 武夫 近藤 健  
岩見 清一 杉本 弼  
安島 史雄

印刷者 東京都中央区銀座東七ノ三  
東銀座印刷出版株式会社  
電話東銀座（542）三九四一

発行所 東京都千代田区富士見町  
法政大学大学院内

法政大学国文学会  
電話東京（262）二三五一番  
振替東京 六九四三番